



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 29, April 2020

Newsletter



令和2年度事業計画・収支予算

財団は、以下のとおり令和2年度事業計画及び予算を決定しました。

令和2年度事業計画

1 経常的な法人運営

① 学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発

i 『学術の動向』の発行

総合学術情報誌『学術の動向』を発行し、日本学術会議関係者、財団賛助会員、大学、図書館、研究機関等に配布する。

『学術の動向』に掲載されている論文等については、国立研究開発法人科学技術振興機構のアーカイブ事業（J-STAGE）を通じて広く一般に公開する。

ii 『学術会議叢書』等の発行

学術及び学術研究の成果を社会一般に普及するため、日本学術会議が行った公開講演会や各種シンポジウム等の記録に加えて、当該学術テーマに関する最新の科学者の論考を盛り込んだ『学術会議叢書』等を発行する。

本年度の同叢書のテーマは「日本の食卓の将来と農業の強靱化について考える（仮）」として、本年度も、公益財団法人一ツ橋総合財団の助成により刊行し、全国、約 1,500 か所の国公立図書館・大学付属図書館等に寄贈する。

② 学術連携推進事業

i 科学者連携事業

日本学術会議主催の講演会、シンポジウム等の事業に対する支援を行う。

ii 学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

「データベース『学会名鑑』」については、日本学術会議及び国立研究開発法人科学技術振興機構と連携し運用を行っている。毎年、日本学術会議が行う協力学術研究団体の実態調査を基に、データの整備・公表を行っている。今後も、我が国学協会の実態を示す基本的データベースとして、内容の充実、利用の拡大に努める。

[略]

this issue

令和2年度事業計画・収支予算
学術会議叢書 26 について
出版物のご案内
データベース学会名鑑について
公開講演会開催に対する支援

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人
日本学術協力財団
〒107-0052
東京都港区赤坂 4-9-3

TEL 03-3403-9788
FAX 03-5410-1822
URL <http://jssf86.org/>

2020年4月1日発行

③ 学協会運営支援

日本学術会議同友会、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー等からの要請を受けて、運営事務の支援を行う。

2 事業運営及び法人財政の改革

[1] 事業運営の改革

① 「学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発」（公益目的事業1）の改革

－科学及び学術に関する議論と社会発信の一層の強化

i 『学術の動向——科学と社会をつなぐ』の改革推進

同誌については、科学と社会を双方向につなぐ学術誌への改革を基本方針として誌面の刷新を続けているが、令和2年度においても、同誌編集委員会の下に設けた「編集企画経営委員会」の提案をふまえて、紙面改革を進める。

紙面改革に当たっては、下記ii及びiiiのとおり、「科学と社会研究会」において「第三カテゴリー研究支援」に関する具体的な研究が進められること、及び、令和2年度から新たに若手科学者により分野を横断して交流研究する活動が展開されることをふまえて、これら活動成果の社会発信に力を入れることとする。

ii 「科学と社会研究会」による議論の推進

「科学と社会研究会」（以下、「研究会」）において、科学と社会、科学技術の研究及びその成果の社会への適用に関する議論を引き続き行う。

特に、「第三カテゴリー研究」^{注)}に関しては、具体的に、第三カテゴリー研究の「種」を発掘する調査研究に着手する。

注) 第三カテゴリー研究：既存の研究助成制度によっては支援されないが、社会的に解決すべき研究課題。

「研究会」による以上の議論の成果は、『学術の動向——科学と社会をつなぐ』に随時掲載し、同誌による「科学と社会」に関する発信を強化する。

iii 異分野交流研究活動の着手と推進

我が国学術研究の閉塞状況は、特に、劣悪な研究環境の下に置かれる若手科学者において顕著だが、このような現況からの脱却・転換に向けた取り組みとして、若手科学者が分野を超えて交流し、研究する会合を運営する。

上記の活動（「異分野交流研究活動」）の成果についても、『学術の動向——科学と社会をつなぐ』に随時掲載し、同誌による「科学と社会」に関する発信を強化する。

② 学協会支援事業の充実・強化

i 連載企画「学協会の今——社会と向き合う」の充実

『学術の動向』の連載企画「学協会の今——社会と向き合う」により、引き続き、各学協会の社会に向けた活動状況、今後の懸案・課題等に関する情報共有の充実を図る。

ii 公益法人法制の見直し、改善等に向けた協議、意見交換の推進

日本学術会議と連携して学協会支援の取り組みを進める。

特に、公益法人法制に関しては、日本学術会議科学者委員会学協会連携分科会と当財団学協会運営支援委員会とが連携して取り纏め、発出した「提言 学協会に係る法人制度——運用の見直し、改善等について」^{注)}をふまえ、引き続き、日本学術会議に協力して、公益認定等委員会との間で、現行公益法人法制の見直し、改善等に関して協議、意見交換を進め、学協会活動の活性化と学術の発展を目指す。

注) 当財団学協会運営支援委員会と連携して審議を進めてきた日本学術会議科学者委員会学協会連携分科会が、平成31年2月14日に同提言を発出した。



※お申込みは FAX にて
03-5410-1822

A5 判、203 頁
本体 1,800 円＋税（送料別）
賛助会員は割引価格
1,782 円（送料込）

学術会議叢書 26

『社会脳から心を探る—自己と他者をつなぐ社会適応の脳内メカニズム』の出版について

財団では、毎年、学術図書として『学術会議叢書』を発刊しています。令和元年度は、「社会脳から心を探る—自己と他者をつなぐ社会適応の脳内メカニズム」と題し、発刊いたしました。

本書は、平成 30 年 10 月 20 日開催に開催された日本学術会議近畿地区会議学術講演会の内容を基に、最新の考察を加え、構成されています。

この叢書につきましては、例年と同じく、公益財団法人一ツ橋総合財団から助成をいただき、全国約 1,500 か所の国公立図書館、大学付属図書館等に寄贈いたしました。

【目次】

「発刊に寄せて」 / 山極壽一

「発刊にあたって」 / 学阪直行

1 自己と他者をつなぐ社会脳 / 学阪直行

2 社会脳から見た発達障がい / 菊知 充

3 協力と公正を支える社会脳 / 大平英樹

4 社会脳とギャンブル / 高橋英彦

5 精神疾患と社会脳——認知機能障害からみた統合失調症 / 松井三枝

6 社会脳から見た自己と身体意識——新学術領域研究「身体性システムの成果から」

/ 今水寛・大木紫・前田貴記・村田哲

(敬称略)

附録・日本学術会議提言「融合社会脳研究の創生と展開」

・用語の解説

2020 年度収支予算

(2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで)

(単位：千円)

科 目	予算額	科 目	予算額
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部		2 経常外増減の部	
(1) 事業活動収入		(1) 経常外収益計	0
基本財産運用益	326	(2) 経常外費用計	0
受取会費	23,408	当期経常外増減額	0
事業収益	12,164	一般正味財産期末残高	8,085
受取補助金等	1,500		
受取寄付金	5,500	II 指定正味財産増減の部	
雑収益	52	指定正味財産期末残高	143,655
経常収益計	42,950		
(2) 経常費用		III 正味財産期末残高	151,740
事業費	32,334		
管理費	10,616		
経常費用計	42,950		
当期経常増減額	0		



学術の動向

A4 判・本体価格 720 円＋税（メール便料込）
年間購読 8,383 円（税・メール便料込）
賛助会員は毎号 1 冊無料配布

- 20 年 1 月号 特集：再生可能エネルギー導入の次段階に向けて
特集：エネルギーの将来における原子力の位置づけ
- 2 月号 特別企画：吉野彰博士の 2019 年ノーベル化学賞受賞
特集：日本旧石器人研究の発展：沖縄の現場から
- 3 月号 特集：福島原発災害による放射線被ばくとその健康影響の評価をめぐって

データベース学会名鑑 —令和元年度調査について

財団は、平成 23 年 7 月より、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と連携してデータベース学会名鑑の運用を行っております。掲載学会は、日本学術会議協力学術研究団体を対象とし、毎年、日本学術会議が行う実態調査を基にデータを更新しております。

本サイトは、学協会関係の各種施策の企画・立案等、社会の多方面で活用されています。

現在、日本学術会議が令和元年度に「協力学術研究団体」を対象に行いました実態調査の結果を掲載しております。

各学術団体の関係者の皆様におかれましては、本事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

データベース学会名鑑 URL：<https://gakkai.jst.go.jp/gakkai>



日本学術会議地区会議の 公開講演会開催に対する 支援

財団は、日本学術会議の各地区会議が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行いました。

◎中部地区会議学術講演会

「地域に根ざした学術研究と地域貢献への展望」

日時：令和元年 11 月 29 日（金）
場所：静岡大学大会館ホール

◎九州・沖縄地区会議学術講演会

「世界を視野に宮崎大学から始める新薬開発への挑戦」

日時：令和 2 年 2 月 11 日（火・祝）
場所：宮崎観光ホテル・東館 3 階 緋壇



公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3
TEL 03-3403-9788
03-5410-0242
FAX 03-5410-1822
URL <http://jssf86.org/>

◎ 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。

今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。